

## ブリテン／シンプル・シンフォニー Op.4

20世紀イギリスのベンジャミン・ブリテン（1913-76）は音楽の在り方そのものが問われた激動の時代にあって、伝統を大切に音楽作りを貫いた作曲家である。アルバン・ベルクらの新しい傾向に惹かれて、ときには無調や拡張された和声を用いながらも、極端なモダニズムに走ることはなかった。

簡素な古典的形式に基づく《シンプル・シンフォニー》は21歳の年に書いた弦楽合奏のための作品。軽妙なセンスで仕上げられている。ブリテンは5歳で最初の歌曲を書いたが、この曲では9歳から13歳になる年までに書いた自作からの引用を主題として用いている。フランス起源の舞曲による「騒々しいブレー」は13歳のピアノのための組曲第1番の素材で始まり、第2主題は10歳の歌曲である。「陽気なピッツィカート」では最初の主題に11歳のピアノのためのスケルツォを引用し、中間部では同じ年の歌曲を奏でる。優美なメロディが特徴の「感傷的なサラバンド」は最初に第一ヴァイオリンが奏でるメロディに12歳のピアノ組曲第3番のメロディ、中間部で10歳のピアノのためのワルツからの引用が奏でられる。フィナーレへ向けて盛り上がる「浮かれた終曲」は第1主題が13歳のピアノソナタ第9番、第2主題が12歳の歌曲の引用となっている。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。